

■■降っても晴れても雨対策■■

これまでも何度か雨に見舞われたコミケット。とくに夏コミは雨の可能性が常に存在するので、参加者はそれを頭に置いておく必要がある。

もし、入場待機列や大手の行列に並んでいる時に雨が降ってきたら？

もし、搬入、搬出時だったら？

ご存じの通り、夏の雨は降り出したらあつという間に激しく叩きつけるような強さになることが多いので、雨粒が落ちてきてからどうしよう、と考えても手遅れだ。雨対策は会場に出かける前から始めるべきものなのだ。

■まずは荷物を守れ！

降り始めたら対策を講じられる時間のごくわずかだ。その時間の中でまず何を守るかと言えば、ほとんどの参加者は自分自身よりも戦利品を含む荷物と答えるだろう。

会場で多くの参加者が利用している紙袋は当然雨には無防備だ。家から持ってきた布や化繊のバッグ類も多くは防水性能を持っていないだろう。雨粒が落ちてきてからの僅かな時間でそれらを雨の中でも大丈夫なようにすることはまず無理な相談だと言っていい。つまり荷物の雨対策は、降り出す前、もっと言えば家を出る前から始まっているのだ。

ちなみに、夏の天気は変わりやすく、事前に雨の可能性が無かったとしても、当日本当に降らないかどうかは誰にも分からない。雨対策はもし降ったらを考えて行うが、当然降らないに越したことはない。無駄になることを願ってしておくものだと認識しておこう。

コミケット参加者の荷物は、そのほとんどが戦利品と、待機&行動のための装備で構成されている。待機中に使う物は会場を歩き回っている時は使わないし、戦利品も、途中で整理はするとしても、基本的には帰宅するまで入れたまま。頻繁に出し入れするのはせいぜい財布と飲物、汗拭きタオルくらいだろう。

ならば話は簡単。家を出る前から持っていく物で濡れては困る物は全てビニール袋類に入れてから、カバンに納めておけばよい。こうしてカバンの中身を一回全て出して再梱包すれば、持って行く物を再チェックできるので忘れ物予防、荷物の最適化も計れて一石三鳥だ。

戦利品も一定量買ったなら逐次ビニール袋かブラケースに移していけば、購入物の保護の面でも安心だ。

例え一日良い天気でも汗や湿気で戦利品を傷めることも珍しくないなので、晴雨に関係なく夏コミでは袋や箱に納めることを習慣にしよう。

その上でカバンのポケットに大きめのビニール袋を2枚も入れておけば、いざ降り出した時にも余裕を持ってそれを被せるだけでOKだ。



■そして自分を守れ！

上のように荷物に事前の雨対策が施されていれば、自分自身の身を守る余裕もできる。とは言え、混雑した会場やその周辺では日傘同様、雨傘を広げると周囲の参加者に多大な危険と迷惑を及ぼす。できるだけポンチョやレインコートなどの傘以外の雨を防ぐ用意もしていくことが望ましい。

しかし、高温多湿の状況下でこれらの雨具を着ければ、今度は汗でぐしょぐしょになりかねない。

つまるところ、雨でも汗でも、完全なブロックは困難なので、濡れないことよりも、濡れても素早くリカバリーできることを重視すべきだ。そのためには、綿以外の乾きやすい服や、最低限の着替えやタオルの用意、靴が濡れても足のある程度ドライに保てる靴下といった装備レベルでの準備が必要になる。

しかし、見方を変えれば日除けのタオルは濡れた時にも役に立つし、雨に濡れても乾きやすい服は汗の発散にも優れて炎天下でも快適に過ごせる。晴れていればやはり汗だから着替えはあったほうがいい。もちろん雨具の用意は必須だが、それ以外の服装や装備は、適切なものを選択しておけば、実は雨でも晴れてもアナタの身を守ってくれるのだ。

ちなみに、カッパでもポンチョでもレインウェアでも、雨具を着る時はフェイスタオルやスポーツタオルを肩に掛け、つば付きの帽子を被ってその上から羽織り、フードを被ると、ぐっと快適（マシ、とも言う）に過ごせるので覚えておこう。そして、雨でも晴れても足元はしっかりと守らねばならない。いくら乾きやすくても危険なのでサンダル履きはやめよう。